

令和4年度

海南省地域防災活動支援事業 実績報告書

(巽地区)



令和5年1月

海南省

《 目 次 》

1. 概要	4
1.1. 地域支援事業の趣旨	4
1.2. 地域の概要（特性・課題）	4
1.3. 事業の目的	4
1.4. 事業の概要	5
1.5. 事業の実施体制	8
2. 防災研修会等	9
2.1. 避難所運営に関する研修会（女性団体連絡協議会、市職員、県職員）	9
2.1.1. 概要	9
2.1.2. 実施風景	9
2.2. 社会福祉施設（福祉避難所）との意見交換	10
2.2.1. 概要	10
2.2.2. 実施風景	10
2.3. 防災訓練事前研修会（異地区自治会・自主防災組織、公民館・福祉施設関係者）	11
2.3.1. 概要	11
2.3.2. 実施風景	12
2.4. 防災学習（海南市立巽中学校）	13
2.4.1. 概要	13
2.4.2. 実施風景	14
2.4.3. 学習の感想（抜粋）	14
2.5. 防災学習（海南市立巽小学校）	15
2.5.1. 概要	15
2.5.2. 実施風景	15
2.5.3. 学習の感想（抜粋）	16
2.6. 福祉防災研修会（市職員）	17
2.6.1. 概要	17
2.6.2. 実施風景	17
2.6.3. 研修の感想（抜粋）	17
2.7. 防災訓練事前研修会（和歌山県立海南高等学校）	18
2.7.1. 概要	18
2.7.2. 実施風景	18
2.8. 防災スクール（和歌山県立海南高等学校）	19
2.8.1. 概要	19
2.8.2. 実施風景	19
2.8.3. 防災スクールの感想（抜粋）	20
2.9. 福祉防災研修会（自治会・自主防災組織、防災士 等）	21
2.9.1. 概要	21
2.9.2. 実施風景	21

3. 防災訓練.....	22
3.1. 概要.....	22
3.2. 訓練実施内容.....	27
3.2.1. 市民みんなで防災訓練.....	27
3.2.2. インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練.....	30
3.2.3. 支援物資輸送・配布訓練.....	36
3.2.4. 電気自動車等からの電源確保訓練.....	37
3.2.5. 移動通信車による通信確保訓練.....	38
3.2.6. 災害ボランティア活動訓練.....	39
3.2.7. 在宅避難者対応訓練.....	40
3.2.8. 福祉避難所移送訓練.....	41
3.2.9. 津波警戒・避難誘導訓練.....	42
3.2.10. 講師による講評.....	42
3.3. アンケート.....	43
3.3.1. アンケート内容.....	43
3.3.2. アンケート結果.....	45
3.4. 事業実施の成果.....	51
3.5. 今後の展開.....	52

1. 概要

1.1. 地域支援事業の趣旨

東日本大震災では、高齢者や障害者等の要配慮者が避難環境に十分適応できなかったとの多くの報告があることから、南海トラフ地震に備え、地域の自主防災組織等の地域関係者と外部支援者が連携し、高齢者や障害者等に配慮した災害時に誰ひとり取り残さないインクルーシブな避難所運営を実施することで、要配慮者を支援する取組を促進する。

今回は、市内全域を対象とした訓練に加え、重点地区を内陸部の異地区とし、異地区の自治会・自主防災組織や民生委員・児童委員等の地域関係者、市内の高校生や県内の大学生、福祉事業所や障害者、乳幼児等の子育て中の親子等が参加するインクルーシブな視点による訓練の実施や、要配慮者支援の重要性を学ぶ研修会、小学校や中学校で福祉防災学習を実施するとともに、市内全域の自治会・自主防災組織を対象に、当該研修会や訓練で得た知見を共有するための研修を実施し、要配慮者に寄り添ったインクルーシブな防災の取組を推進することで、地域の連携促進や地域防災力の強化を行う。

1.2. 地域の概要（特性・課題）

本市では、最大8mの津波が襲来するとともに、死者4千人、建物全半壊率58%の甚大な被害が想定されている南海トラフ巨大地震において、今回、事業を実施する本市の「異地区」は、津波の浸水想定区域外に位置しており、緊急輸送道路である阪和高速自動車道や国道42号に直結する国道370号が東西に横断するなど、避難者を受け入れるのに適した地域である。

また、同地区には、災害対策本部及び復旧・復興拠点でもある海南市役所、小・中学校やコミュニティセンターの市指定避難所、要配慮者を受け入れる市指定福祉避難所があり、本市の災害時の受援拠点である海南市総合体育館や災害ボランティアセンターとなるわんぱく公園をはじめ、国土交通省、海南保健所など、多くの防災上の重要な公共施設が隣接している。

他方で、本市の避難行動要支援者の個別避難計画作成率が令和3年12月末現在で46.4%の中、同地区の計画作成率は49.3%と市全体よりも2.9%高いものの低迷している。また、市指定福祉避難所が令和5年1月末現在、市全体で19施設あり、そのうち同地区には3施設あるものの、福祉避難所と連携した訓練が実施できていない。

1.3. 事業の目的

近い将来発生が予測される南海トラフ地震に備え、自主防災組織等の地域関係者、市、社会福祉協議会、企業、団体、学生、ボランティア等が連携・協働して、福祉事業所や施設利用の障害者、乳幼児等の子育て中の親子等が参加のもと、避難行動要支援者避難誘導や要配慮者に配慮した避難所運営、また命を繋ぐための福祉避難所への移送など、インクルーシブな視点を取り入れた実践的な訓練を通じて、災害関連死ゼロを目指し、地域の連携促進と、地域防災力強化に向けた必要な知識や行動を身に付けることを目的とする。

1.4. 事業の概要

(1) 防災研修会等

【避難所運営に関する研修会（女性団体連絡協議会、県職員、市職員）】

日時	令和4年9月26日（月） 10時00分～
場所	海南市役所 3階 会議室3A
内容	1. 講演 2. 意見交換会

【社会福祉施設（福祉避難所）との意見交換（社会福祉施設関係者、市職員）】

日時	令和4年9月28日（月） 13時30分～
場所	和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり
内容	1. 福祉避難所の今後のあり方等についての意見交換 2. 避難所設置・運営訓練での役割について

【防災訓練事前研修会（異地区自治会・自主防災組織、公民館関係者、福祉施設関係者）】

日時	令和4年10月16日（日） 9時00分～12時00分
場所	海南市役所 3階 会議室3A
内容	1. 学識経験者による講演 2. 訓練を前に「東日本大震災と南海トラフ地震」 3. 訓練説明（内容・役割）

【防災学習（海南市立巽中学校）】

日時	令和4年10月18日（火） 13時30分～15時15分
場所	海南市立巽中学校体育館
内容	1. 講演「いつも支えあい、災害時にも助け合おう」 2. グループワーク 3. ふりかえり

【防災学習（海南市立巽小学校）】

日時	令和4年10月25日（火） 11時35～15時25分
場所	海南市立巽小学校体育館
内容	1. 団体紹介 2. 豪雨災害の支援 3. まとめ「防災に大切なこと」 4. 福祉学習…車椅子体験（市社会福祉協議会）

【福祉防災研修会（市職員）】

日時	令和4年10月28日（金） 13時30～14時30分
場所	海南市役所 3階 会議室3A
内容	講師 跡見学園女子大学 教授 鍵屋 一 講演内容 誰ひとり取り残さない防災（福祉防災）（録画）

【防災訓練事前研修会（和歌山県立海南高等学校）】

日時	令和4年11月8日（火） 16時30分～
場所	海南市役所 3階 会議室3A
内容	1. 訓練を前に「南海トラフ地震と東日本大震災」 2. 訓練説明（内容・役割） 3. 実技

【防災スクール（和歌山県立海南高等学校）】

日時	令和4年12月14日（水） 12時55分～14時35分
場所	県立海南高等学校 南校舎 体育館・柔道場
内容	1年生：ブース体験【体育館】 ※6班×2ブース マイトイレ作り体験・防災クイズ【教室】 2年生：海南市危機管理課による講演【柔道場】 ブース体験【体育館】 ※6班×2ブース

【福祉防災研修会（自治会・自主防災組織、防災士 等）】

内容	WEB配信 講師 跡見学園女子大学 鍵屋 一 教授 講演内容 誰ひとり取り残さない防災（福祉防災） ※インターネット環境がない対象者にむけて、視聴会を実施 日時：令和5年1月14日（土） 10時00分～11時00分 場所：海南市役所 3階 会議室A・B
----	---

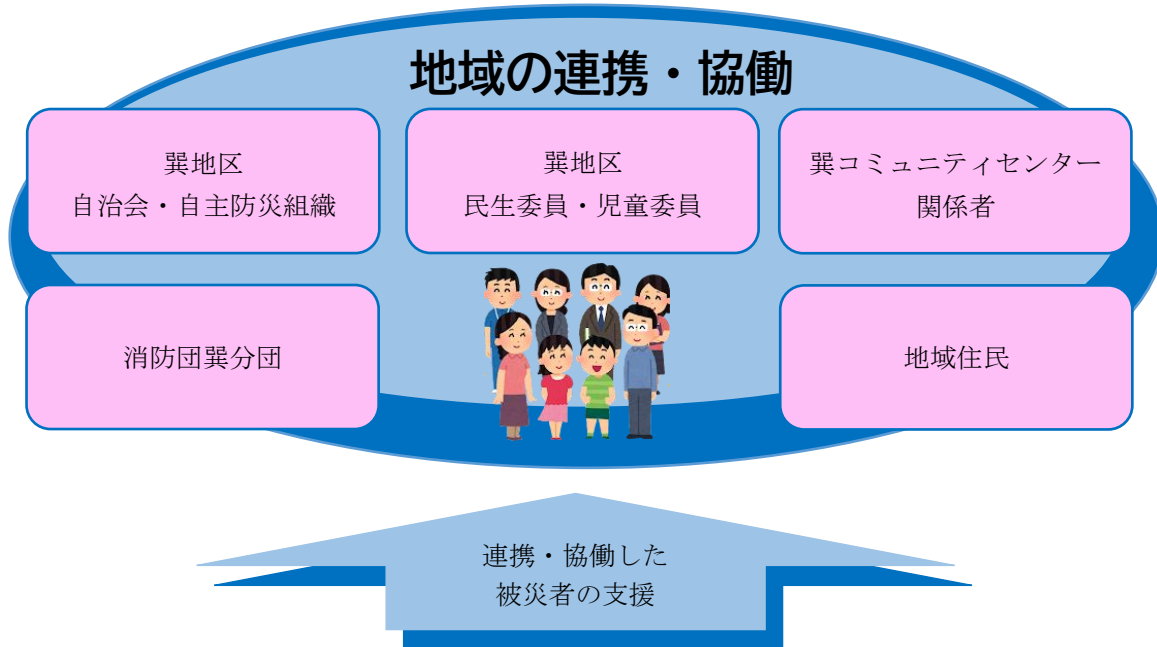
(2) 防災訓練

【令和4年度海南市防災訓練】

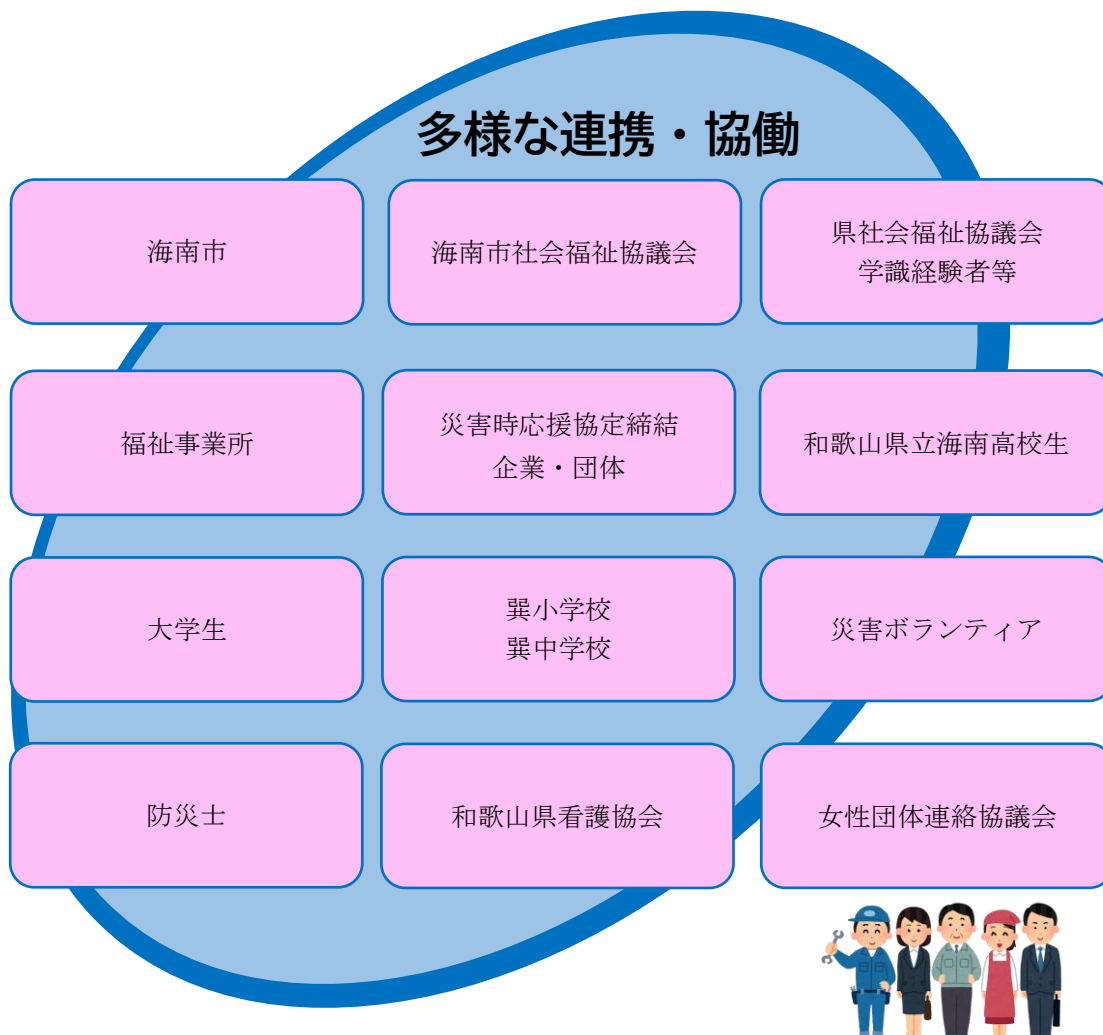
日時	令和4年11月13日(日) 9時00分～12時00分
場所	主会場：海南市立巽中学校体育館 等 別会場：支援物資保管場所：集中備蓄倉庫（市民運動場西側） 災害ボランティアセンター：和歌山県看護協会研修センター 福祉避難所：阪井カルフル・ド・ルポ総合ケアステーション ラヴィ 和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センター あかり
内容	フェーズⅠ（発災直後） ①シェイクアウト訓練（市内全域） 参加者：全市民 ②津波避難訓練（沿岸部（津波浸水区域内の地域）） ③安否確認訓練（内陸部、沿岸部（津波浸水区域外の地域）） ④津波警戒・避難誘導訓練 ----- フェーズⅡ（発災3日後） ①インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練 ②支援物資輸送・配布訓練 ③電気自動車等からの電源確保訓練 ④移動通信車による通信確保訓練 ⑤災害ボランティア活動訓練 ⑥在宅避難者対応訓練 ⑦福祉避難所移送訓練

1.5. 事業の実施体制

【地域関係者等（避難者・地域関係者）】



【行政、福祉事業所、企業・団体、学生、災害ボランティア等】



2. 防災研修会等

2.1. 避難所運営に関する研修会（女性団体連絡協議会、市職員、県職員）

2.1.1. 概要



日時	令和4年9月26日（月） 10時00分～
場所	海南市役所3階 会議室3A
参加者	女性団体連絡協議会 36名 市職員 5名 県職員 1名
目的	熊本地震の際、実際に避難所で生活しながら避難所運営にかかわった、「NPO 法人益城だいすきプロジェクト・きまままに」代表理事の吉村静代氏を講師に招き、女性の視点を取り入れた災害時に誰ひとり取り残さないインクルーシブな避難所運営について学ぶことを目的とした、海南市女性団体連絡協議会主催の研修会を開催。
内容	1. 講演 テーマ：「主役はわたしたち ～避難所からのコミュニティ形成～」 講師：NPO法人益城だいすきプロジェクト・きまままに 吉村静代 代表理事 2. 意見交換会

2.1.2. 実施風景



講演

2.2. 社会福祉施設（福祉避難所）との意見交換

2.2.1. 概要



日時	令和4年9月28日（月） 13時30分～
場所	和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり
参加者	支援センターあかり関係者 2名 市職員 2名
目的	今回の重点地区訓練に参加する和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり関係者と福祉避難所の今後のあり方や避難所において障害当事者に必要な合理的配慮、支援について協議するとともに、訓練での役割や共通認識を得る。
内容	1. 福祉避難所の今後のあり方等についての意見交換 2. 避難所設置・運営訓練での役割について

2.2.2. 実施風景



意見交換

2.3. 防災訓練事前研修会（異地区自治会・自主防災組織、公民館・福祉施設関係者）

2.3.1. 概要



日時	令和4年10月16日（日） 9時00分～12時00分
場所	海南市役所3階 会議室3A
参加者	異地区の自治会・自主防災組織、異コミュニティセンター、海草生活総合支援センターあかり関係者 34名
目的	11月13日の防災訓練に参加する異地区の自治会・自主防災組織、異コミュニティセンター、海草生活総合支援センターあかり関係者に、訓練に向けた事前研修を実施。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学識経験者による講演 テーマ「災害から命、生活、地域を守るために」 講師：和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 災害科学・レジリエンス共創センター 宮定 章 特任准教授 2. 訓練を前に「東日本大震災と南海トラフ地震」 3. 訓練説明（内容・役割）

2.3.2. 実施風景



講演



過去の災害についての説明



訓練説明



段ボールパーティション組立

2.4. 防災学習（海南市立巽中学校）

2.4.1. 概要



日時	令和4年10月18日（火） 13時30分～15時15分
場所	海南市立巽中学校体育館
参加者	巽中学校 全校生徒 162名
目的	<p>災害時におけるボランティア活動の意義や福祉的な支え合いの重要性を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災を切り口に、地域住民（子供から高齢者まで全て）の「学び」や「気づき」の場面をつくる。 ・「他人ごと」ではなく「自分ごと」としてとらえることができるよう、講話とグループワークにより、「困りごと（困ること）」を知り、気づき、「助け合える人・まち」「思いやり・優しさ」を育む機会とする。
内容	<p>1. 講演 テーマ：「いつも支えあい、災害時にも助け合おう」 講師：社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会 地域福祉部副部長兼災害ボランティアセンター 所長 南出 考 氏</p> <p>2. グループワーク 喪失感（大切なものを考えよう） クイズ（どれだけ身についたか）</p> <p>3. ふりかえり</p>

2.4.2. 実施風景



講演



グループワークの様子



グループワークの様子



発表の様子

2.4.3. 学習の感想（抜粋）

- ・多くの地域に多くのボランティアの人が行っていることに驚いた。
- ・ボランティア元年などボランティアに関する知識を学べてよかった。
- ・普段当たり前にあると思っていたものが、それを失ったときに、残念な気持ちになることを気づかされ、大切にしようと思った。

2.5. 防災学習（海南市立巽小学校）

2.5.1. 概要



日時	令和4年10月25日（火） 11時35分～15時25分
場所	海南市立巽小学校体育館
参加者	巽小学校 6年生 67名
目的	兵庫県の震災・学校支援チーム（EARTH）より講師を招き、避難所支援や防災での大切なことについての防災学習や、市社会福祉協議会による車椅子体験を実施。
内容	<p>講師：震災・学校支援チーム（EARTH） 高尾 了子 氏（明石市立魚住中学校 教諭） 上間 征二 氏（稲美町立天満小学校 教諭）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 団体説明 …自己紹介・阪神淡路大震災の経験 2 豪雨災害の支援 …西日本豪雨における避難所支援について 3 まとめ「防災に大切なこと」 …自分の命を守る、過去の教訓を知る、家族で話し合う 4 福祉学習…車椅子体験（市社会福祉協議会）

2.5.2. 実施風景



防災学習の様子



防災学習の様子

2.5.3. 学習の感想（抜粋）

- ・避難所の様子を見て、今までの教訓が生かされていることを知れてよかった。
- ・災害は起こってほしくないけれど、もし起こったらと考えて自分で何ができるか考えて周りの人と協力して避難したい。

2.6. 福祉防災研修会（市職員）

2.6.1. 概要



日時	令和4年10月28日（金） 13時30～14時30分
場所	海南市役所 3階 会議室3A
参加者	市職員 6名
目的	要配慮者支援所管部署を対象に避難行動要支援者を含む要配慮者を地域や福祉専門職、行政が協力して支援することの必要性などについて、学ぶことを目的に実施。
内容	講師 跡見学園女子大学 教授 鍵屋 一 講演内容 誰ひとり取り残さない防災（福祉防災）（録画）

2.6.2. 実施風景



研修会の様子

2.6.3. 研修の感想（抜粋）

- ・一度でも訓練に参加した人の方が実際に避難する率が高いことから、訓練への参加の必要性を訴えていく必要がある。
- ・寝たきりや医療的なケアが必要な方へどのように支援すべきか等についても学んでいきたい。

2.7. 防災訓練事前研修会（和歌山県立海南高等学校）

2.7.1. 概要



日時	令和4年11月8日（火） 16時30分～
場所	海南市役所 3階 会議室3A
参加者	県立海南高等学校硬式野球部 生徒 30名
目的	11月13日に異地区で実施する重点地区訓練の事前研修として、訓練の内容や役割について確認し、車いすの操作や高齢者体験キットの装着、段ボールパーティション・ベッド等の組立などを体験する。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訓練を前に「南海トラフ地震と東日本大震災」 2. 訓練説明（内容・役割） 3. 実技 車いすの操作方法 避難所運営に必要な段ボールベッド、段ボールパーティション、ワンタッチパーティション、要配慮者対応ユニバーサルトイレの組立

2.7.2. 実施風景



訓練説明



実技の様子

2.8. 防災スクール（和歌山県立海南高等学校）

2.8.1. 概要



日時	令和4年12月14日（水） 12時55分～14時35分
場所	県立海南高等学校 南校舎 体育館・柔道場
参加者	県立海南高等学校 1年生 198名、2年生 181名
目的	近い将来起こると危惧されている南海トラフ地震等の大規模災害に備え、防災・減災に関する知識や技術を身に付け、防災への意識を高めるため、県立海南高等学校からの要請に基づき、関係機関とともに防災スクールを実施。
内容	1年生：ブース体験【体育館】 ※6班×2ブース マイトイレ作り体験・防災クイズ【教室】 2年生：海南市危機管理課による講話【柔道場】 ブース体験【体育館】 ※6班×2ブース

2.8.2. 実施風景



段ボールベッドの組立



説明の様子

2.8.3. 防災スクールの感想（抜粋）

- ・思ったより簡単に出来ました。南海トラフ地震に備え、もっといろんなことにチャレンジしてみたいです。
- ・率先して行動できるよう、これからも取り組みたいです。

2.9. 福祉防災研修会（自治会・自主防災組織、防災士 等）

2.9.1. 概要



動画視聴人数	216名（令和5年1月末現在） 視聴会参加者 9名
目的	自治会・自主防災組織、防災士、消防団、民生委員・児童委員を対象とし、WEB配信にて誰ひとり取り残さない「インクルーシブ防災」をテーマに避難行動要支援者への対応や地域関係者や福祉関係者、当事者等が顔の見える関係性を構築し、どのように地域で連携し、支援を進めていくべきか等を学ぶ。 ※インターネット環境がない対象者にむけて、視聴会を実施 日時：令和5年1月14日（土） 10時00分～11時00分 場所：海南市役所 3階 会議室A・B
内容	講師 跡見学園女子大学 鍵屋 一 教授 講演内容 誰ひとり取り残さない防災（福祉防災）

2.9.2. 実施風景



視聴会の様子



視聴会の様子

3. 防災訓練

3.1. 概要

(1) 実施概要

南海トラフ地震に備え、全市民対象にシェイクアウト訓練及び津波浸水区域外では安否確認訓練並びに津波浸水区域内では津波避難訓練を実施するとともに、津波浸水想定区域外に位置する「異地区」を重点地区とし、地域住民と外部支援者等が連携し、インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練や災害ボランティア活動訓練、在宅避難者対応訓練等を実施した。

(2) 目的

東日本大震災では、高齢者や障害者等の要配慮者が避難環境に十分適応できなかったとの多くの報告があることから、南海トラフ地震に備え、地域の自主防災組織等の地域関係者と外部支援者が連携し、高齢者や障害者等に配慮した災害時に誰ひとり取り残さないインクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練等を実施することで、要配慮者を支援する取組を促進する。

また、地域関係者、高校生や大学生、福祉事業所や障害者当事者、乳幼児等の子育て中の親子、企業や団体、ボランティア等の外部支援者等が参加し、インクルーシブな視点と多様な関係者の連携強化を目指した訓練により、要配慮者に寄り添ったインクルーシブな地域防災の取組を推進することで、地域の連携促進や地域防災力の強化を行う。

(3) 実施日時

令和4年11月13日（日）午前9時00分～午前12時30分頃
（主会場は午前10時15分～）

(4) 主催

海南省、海南省社会福祉協議会

(5) 訓練想定

11月13日、午前9時00分、南海トラフ巨大地震が発生
午前9時02分 大津波警報発表（海南省 最大震度7、最大津波高8m）

(6) 訓練メニュー

<フェーズⅠ：発災直後>

- ①シェイクアウト訓練
- ②避難行動要支援者避難訓練
- ③津波警戒・避難誘導訓練

<フェーズⅡ：発災3日後>

- ①インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練
- ②支援物資輸送・配布訓練
- ③電気自動車等からの電源確保訓練
- ④移動通信車による通信確保訓練
- ⑤災害ボランティア活動訓練
- ⑥在宅避難者対応訓練
- ⑦福祉避難所移送等訓練

(7) 参加者 209名（うち女性参加者75名）

- ・地域住民 65名
（異地区自治会・自主防災会、異地区民生委員・児童委員、異コミュニティセンター関係者、乳幼児親子、異地区住民）
- ・学校 25名
（和歌山県立海南高等学校）
- ・企業・団体 25名
（株式会社サンコー、佐川急便株式会社、公益社団法人和歌山県看護協会、トヨタカローラ和歌山株式会社、株式会社なかモーター自工、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、和歌山自動車株式会社、株式会社ドコモ CS 関西、特定非営利活動法人ゆうゆうスポーツクラブ海南、特定非営利活動法人海南市水泳協会、海南市女性団体連絡協議会、大塚製薬株式会社、和歌山県）
- ・福祉施設関係者 27名（うち障害当事者14名）
（和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり、医療法人同仁会）
- ・災害ボランティア 14人、運営スタッフ 6人
- ・消防団異分団 3人
- ・社協職員 10人
- ・市職員 34人

(8) 会場

(主会場) 海南市立巽中学校体育館 (阪井 399) 等

(別会場) 支援物資保管場所: 集中備蓄倉庫 (市民運動場西側 (大野中 973))

災害ボランティアセンター: 和歌山県看護協会研修センター
(南赤坂 17)

(福祉避難所) 阪井カルフル・ド・ルポ 総合ケアステーションラヴィ
和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり

(9) 後援





国立大学法人和歌山大学

(10) その他

- ・訓練等においては、「インクルーシブな地域防災」「地域と外部支援者の連携」「災害関連死の防止」「SDGs と関連させた取組」「デジタル化の推進」を重要な視点として取り組む。

(11) 避難所での SDGs の取組

避難所で誰一人取り残さないことを基本理念とし、「SDGs (持続可能な開発目標)」の考え方と防災の取り組みを関連付けています。

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>【3 すべての人に健康と福祉を】 高齢者や障害者等に配慮した避難所運営</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>【5 ジェンダー平等を実現しよう】 女性専用スペースなど女性に配慮した避難所運営</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>【6 安全な水とトイレを世界中に】 飲料水、トイレ袋の配布</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>【7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに】 電気自動車、燃料自動車による電源確保</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>【17 パートナーシップで目標を達成しよう】 地域住民と企業、団体、ボランティアと協働での避難所運営</p>

海南市 

令和4年度 **全員参加!!**

市民みんな 防災訓練



実行日時 **11月13日(日) 午前9時～**

※防災行政無線による放送やエリアメール・緊急速報メールの一斉配信を実施します。

訓練1 **シェイクアウト訓練**
(市内全域)

シェイクアウト訓練とは
地震発生の場合とともに、下図の「3つの安全確保行動」を行う一斉防災訓練です。



※各訓練は、感染症対策を講じたうえで、実施してください。

訓練2 (沿岸部) **津波避難訓練**
(内陸部) **安否確認訓練**

※各訓練は、感染症対策を講じたうえで、実施してください。

訓練3 地区、事業所、施設などの **独自訓練 (任意)**

※独自訓練は、感染症対策を講じたうえで、実施してください。

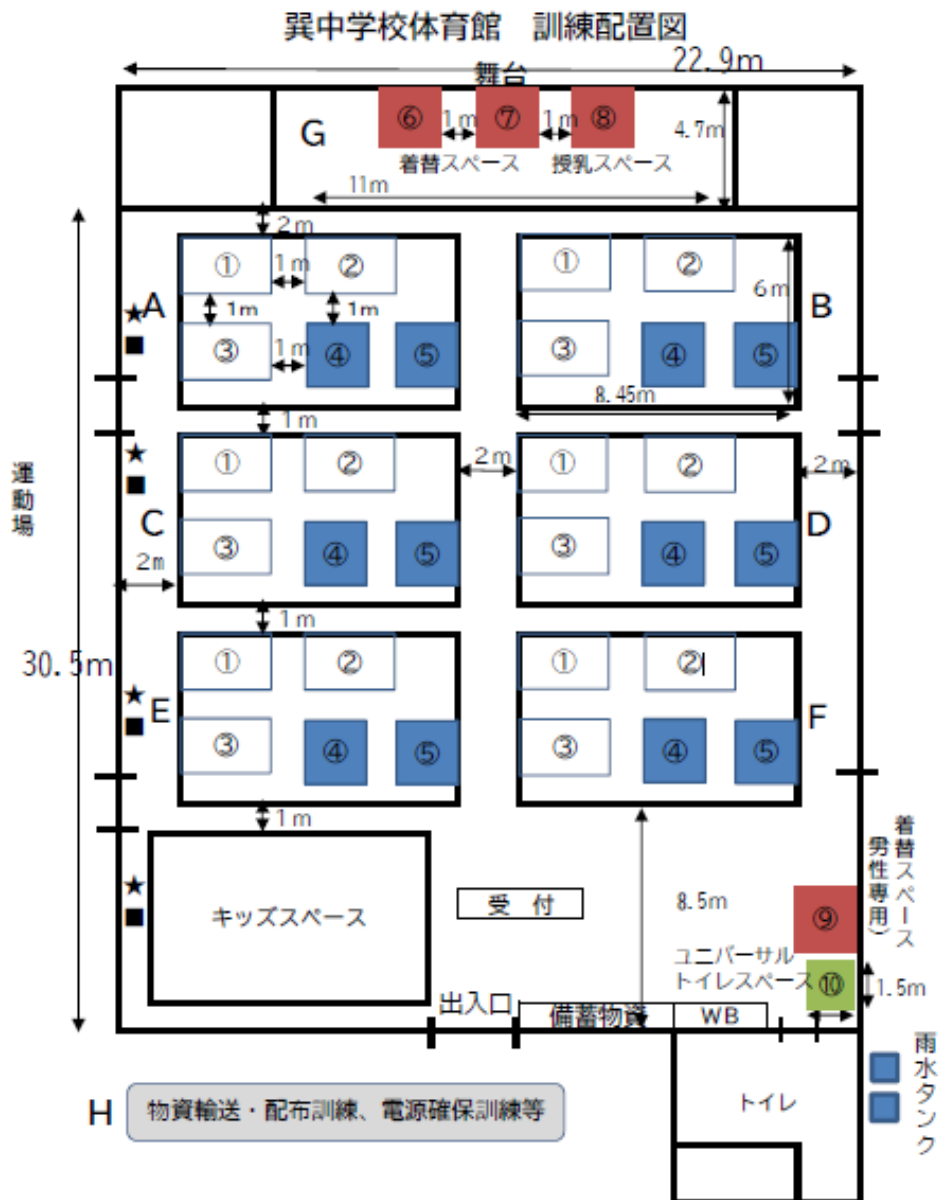


併せて取り組もう!

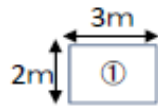
- 非常持出品・備蓄品の確認
- 自宅・事業所内や周辺の危険箇所の確認
- 家具類の転倒防止策の検討
- 避難場所及び家族の連絡方法の確認
- ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める

※気象警報や、新型コロナウイルス感染症の状況等により、内容の変更や中止となる場合があります。

(13) 会場レイアウト

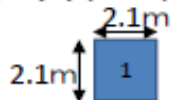


□段ボールパーティション：各グループ3セット設置 (①～③)



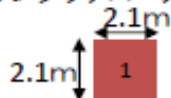
1セット9枚の段ボールが必要
 (⇒9枚×3セット=27枚/G)
 (27枚×6G=計162枚)
 (3セット×6G=計18張)
 ※ダブルクリップ16個/セットが必要

■ワンタッチパーティション (2人用)：各グループ2張設置 (④～⑤)



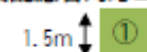
(⇒2張×6=12張)

■ワンタッチパーティション (カーテンタイプ) 4張設置 (⑥～⑨)



★投光器

■要配慮者対応ユニバーサルトイレ1張設置 (⑩)



■大型扇風機

3.2. 訓練実施内容

3.2.1. 市民みんなで防災訓練

① 訓練対象者

22,073 世帯 48,031 人（令和4年10月末現在）

② 訓練伝達手段

- ・防災行政無線（9時に緊急地震速報及び大津波警報発表）
- ・エリアメール・緊急速報メール（海南市内の携帯電話に一斉配信）

③ 訓練内容

【シェイクアウト訓練】 地震発生合図のもと、その場で3つの安全確保行動（まず低く・頭を守り・動かない）を実施

【安否確認訓練（内陸部）】

【津波避難訓練（沿岸部）】

【独自訓練（任意）】

④ 訓練結果（シェイクアウト訓練・安否確認訓練・津波避難訓練）

地区名	シェイクアウト訓練		安否確認訓練 ※		津波避難訓練 参加人数
	世帯数	人数	世帯数	人数	
黒江・船尾地区	2,182 世帯	4,342 人	59 世帯	115 人	349 人
日方地区	2,135 世帯	4,004 人			250 人
内海地区	1,805 世帯	3,843 人			204 人
冷水地区	241 世帯	409 人			187 人
大野地区	2,417 世帯	5,393 人	90 世帯	166 人	
巽地区	2,717 世帯	6,248 人	1,631 世帯	3,957 人	
亀川地区	3,224 世帯	7,778 人	505 世帯	1,312 人	49 人
北野上地区	1,119 世帯	2,263 人	729 世帯	1,752 人	
中野上地区	1,125 世帯	2,411 人	724 世帯	1,790 人	
南野上地区	528 世帯	1,047 人	362 世帯	848 人	
下津地区	1,426 世帯	3,129 人	107 世帯	281 人	246 人
大崎地区	1,586 世帯	3,503 人	203 世帯	611 人	231 人
塩津地区	223 世帯	444 人			242 人
加茂地区	1,058 世帯	2,582 人	735 世帯	1,988 人	
仁義地区	287 世帯	635 人	204 世帯	534 人	
合計	22,073 世帯	48,031 人	5,349 世帯	13,354 人	1,758 人

※訓練参加自治会に限る

⑤ 実施風景

【シェイクアウト訓練】



【津波避難訓練】



日方地区：海南 nobinos 階段



日方地区：海南 nobinos 屋上



塩津地区

【独自訓練（塩津区防災会）】

訓練では、避難行動要支援者宅への声かけや、お寺の鐘を使った避難の呼びかけ、防潮扉の閉鎖、津波避難場所での安否確認訓練、無線通信、地区本部での情報収集などに取り組み、続いて、旧塩津小学校で避難所設置訓練を実施した。また、訓練後には、防災会が企画した研修会や訓練の振り返りも実施した。訓練や研修会では下津第二中学校の生徒も参加し、地区の取組を体験した。



訓練前の打ち合わせの様子



お寺の鐘を使った避難の呼びかけの様子



防潮扉閉鎖訓練の様子



発電機試運転の様子



避難所設置訓練の様子



訓練後の研修の様子

3.2.2. インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練

(1) 新型コロナウイルス感染症等対応避難所設置・運営訓練



① 参加者

■ 地域住民

異地区自治会・自主防災会、異コミュニティセンター関係者、
海草生活総合支援センターあかり、災害ボランティア

■ 学校

和歌山県立海南高等学校

■ 企業・団体

和歌山県

■ 市職員

② 訓練の様子

- ・ 段ボールパーティションや段ボールベッド、ワンタッチパーティションの組立。
- ・ 和歌山県緊急機動支援隊による避難所配備職員への避難所状況の聞き取りを実施。



(2) 高齢者や障害者に配慮した避難所設置・運営訓練

① 参加者

■ 地域住民

異地区自治会・自主防災会、
異コミュニティセンター関係者、
災害ボランティア

■ 学校

和歌山県立海南高等学校

■ 企業・団体

海草生活総合支援センターあかり



② 訓練の様子

手すり、スロープ、ユニバーサルトイレの設置、歩行器の装着体験。



(3) 乳幼児に配慮した避難所設置・運営訓練

① 参加者

■ 地域住民

異地区民生委員・児童委員
乳幼児親子

■ 学校

和歌山県立海南高等学校



② 訓練の様子

キッズスペースの設営、乳幼児親子の避難所体験



(4) 女性に配慮した避難所設置・運営訓練

① 参加者

■ 学校

和歌山県立海南高等学校



② 訓練の様子

女性更衣室、授乳室等、女性専用スペースを確保。男女共同参画に配慮した避難所運営のため、スペース出入口にピクトグラムを設置。

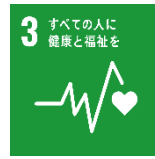


(5) 要配慮者対応訓練（高齢者・妊婦体験キット・車いす着用）

① 参加者

■ 学校

和歌山県立海南高等学校



② 訓練の様子

高齢者体験キット、妊婦体験キット、車いすを着用し、要配慮者の疑似体験をしながら、避難所設営訓練を実施した。



(6) 避難所運営会議訓練

① 参加者

■ 地域住民

異地区自治会・自主防災会

異コミュニティセンター関係者

■ 学校

和歌山県立海南高等学校

■ 企業・団体

海草生活総合支援センターあかり

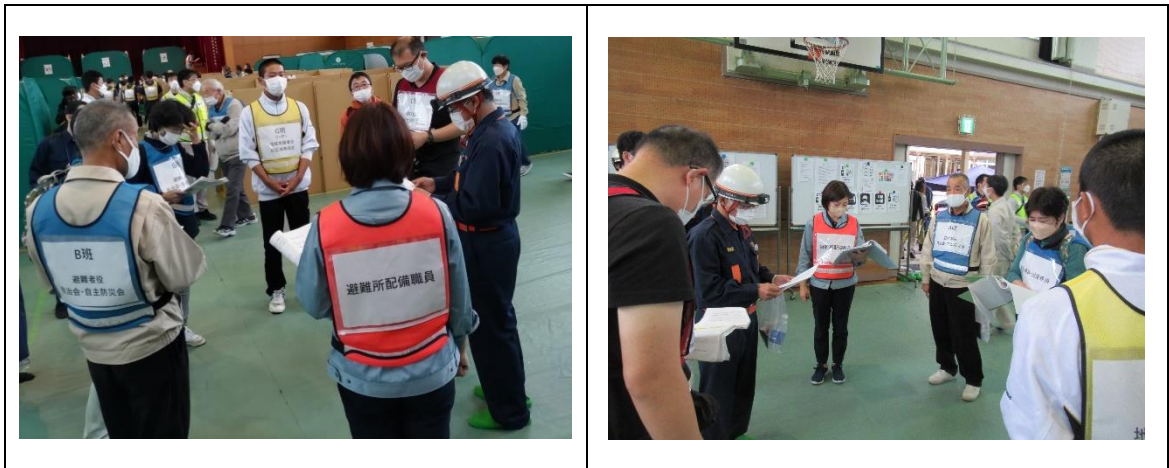
■ 消防団異分団

■ 市職員



② 訓練の様子

代表者が会議に参加し、役割の確認や状況報告等の情報共有を行う。



3.2.3. 支援物資輸送・配布訓練



(1) 参加者

■ 学校

和歌山県立海南高等学校

■ 企業・団体

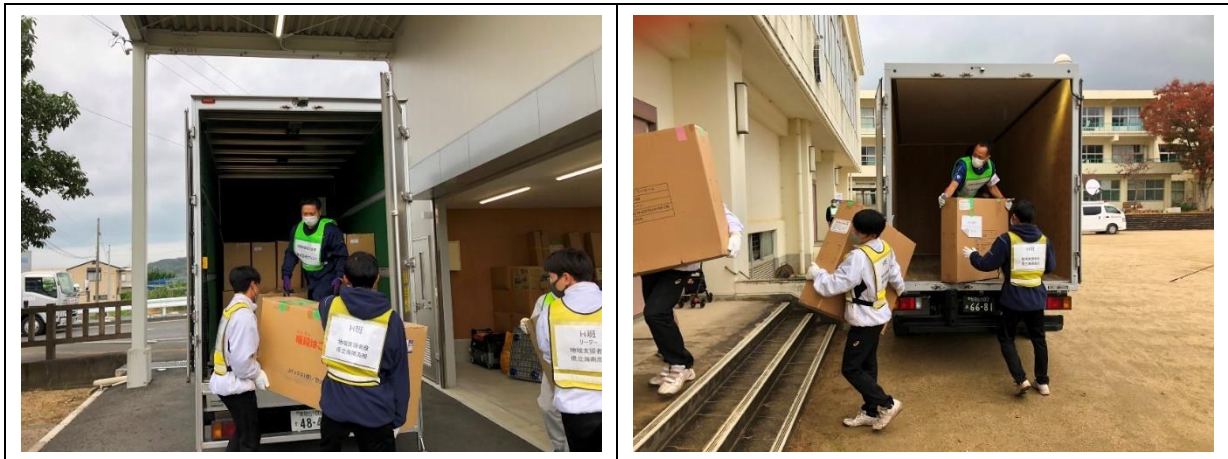
株式会社サンコー、佐川急便株式会社、大塚製薬株式会社

■ 市職員

(2) 訓練の様子

【支援物資輸送訓練】

市集中備蓄倉庫から支援物資（段ボールベッド、ワンタッチパーティション）を、災害時応援協定先の企業のトラックで巽中学校体育館に搬入。



【支援物資配布訓練】

支援物資（アルファ米、ライスクッキー、飲料水、トイレ袋など）を避難者に配布。



3. 2. 4. 電気自動車等からの電源確保訓練



(1) 参加者

■学校

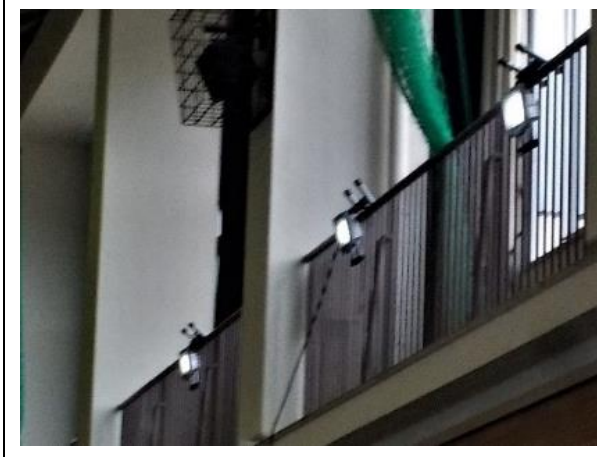
和歌山県立海南高等学校

■企業・団体

トヨタカローラ和歌山株式会社、株式会社なかモーター自工、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、和歌山自動車株式会社

(2) 訓練の様子

長期間の停電を想定し、電気自動車や水素自動車等を活用し、避難所生活に必要な電力を確保する。



3.2.5. 移動通信車による通信確保訓練

(1) 参加者

■企業・団体

株式会社ドコモ CS 関西



(2) 訓練の様子

長期間の停電による携帯基地局の通信サービス中断を想定し、移動通信車を活用し、携帯電話による情報伝達に必要な通信を確保する。



3.2.6. 災害ボランティア活動訓練



(1) 参加者

■ 地域住民

災害ボランティア

■ 学校

和歌山県立海南高等学校

■ 企業・団体

公益社団法人和歌山県看護協会、特定非営利活動法人ゆうゆうスポーツクラブ海南、特定非営利活動法人海南市水泳協会

(2) 訓練の様子

団体や NPO 法人、大学生が災害ボランティアセンターの運営を支援し、災害ボランティアの受付及び送迎を行うとともに、避難者を受け入れるための環境整備や被災者の支援を行う。



3.2.7. 在宅避難者対応訓練



(1) 参加者

■ 地域住民

異地区民生委員・児童委員

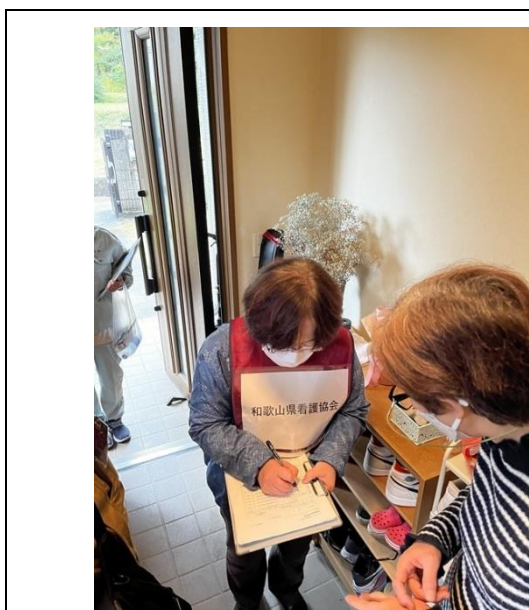
■ 企業・団体

公益社団法人和歌山県看護協会

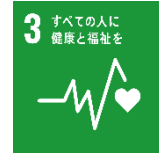
■ 市職員

(2) 訓練の様子

在宅避難者宅を訪問し、ご家庭の状況などについて聞き取りを行う。



3. 2. 8. 福祉避難所移送訓練



(1) 参加者

■ 地域住民

異地区住民

■ 企業・団体

和歌山県福祉事業団海草生活総合支援センターあかり、医療法人同仁会

■ 市職員

(2) 訓練の様子

避難所で生活が困難な要配慮者を福祉避難所へ移送し、災害関連死を防止する。



3.2.9. 津波警戒・避難誘導訓練



(1) 参加者

■ 消防団異分団

(2) 訓練の様子

安全な区域から津波浸水想定区域内への車両移動を防ぐため、啓発看板を設置し、手順の確認を行う。



3.2.10. 講師による講評

(1) 講評者

国立大学法人和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus
災害科学・レジリエンス共創センター 特任准教授 宮定 章 氏

(2) 講評

- ・今回実施された「インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練」では、地域の方や地元の高校生、乳幼児、福祉事業所関係者、ボランティアなど様々な方が連携や協働して活動する画期的な訓練であった。
- ・災害関連死を防ぐためには、要配慮者それぞれの方に必要な配慮を想像し、みんなが避難しやすい避難所環境を協力して作っていくことが重要であるので、今後も継続して取り組んでほしい。

3.3. アンケート

3.3.1. アンケート内容

令和4年度 海南市防災訓練 参加者アンケート

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環として、デジタル方式による回答を導入しています。

スマートフォンをお持ちの方は、右のQRを読み取り、スマートフォンで回答をお願いします。

お持ちでない方や難しい方は、こちらの用紙に記入して、提出してください。



.....
以下の内容に、○で回答してください

※問1、問2は、デジタル回答の分析のためご協力ください。

(問1) 性別（1つ選択）

- ア. 男 イ. 女 ウ. その他 エ. 回答しない

(問2) 年代（1つ選択）

- ア. 10代 イ. 20代 ウ. 30代 エ. 40代 オ. 50代 カ. 60代 キ. 70代以上

《訓練について》

(問3) 訓練についての感想（1つ選択）

- ア. 良かった イ. 良くなかった ウ. どちらでもない

(問4) 今回の訓練で感じたこと（複数回答可）

- ア. 非常持出品の準備など、日頃の備えの有用性
イ. 自主防災組織やボランティアによる助け合いの必要性
ウ. 企業や団体などの協力の重要性
エ. 定期的な訓練の必要性
オ. 何も感じなかった

《日頃の対策について》

(問5) ご家庭で対策している災害への備えについて（複数回答可）

- ア. 食料や飲料水の備蓄
イ. 非常持出品（懐中電灯や着替え、薬など）の準備
ウ. 家族の避難場所や安否確認方法
エ. 市避難所以外の親せきや知人宅への避難
オ. 自主防災組織に加入
カ. 隣近所の人や友人との助け合い
キ. 家具の転倒防止対策
ク. 感震ブレーカーの設置
ケ. 災害に備えた保険への加入
コ. 自家用車のこまめな満タン給油
サ. 何もしていない

(問6) 前問で「食料や飲料水の備蓄」と回答した方(1つ選択)

- ア. 1日分 イ. 2~3日分まで ウ. 1週間分まで エ. 1週間分より多く

(問7) 問5で「何もしていない」と回答した方の理由(1つ選択)

- ア. 忙しいから
イ. 何をしたら良いか分からない
ウ. 災害の影響がないと思うから
エ. 国や県、市が助けてくれると思うから
オ. 特に理由はない

《SDGsについて》

(問8) 海南市では、誰一人として取り残さないことを基本理念として「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方や防災の取組を関連付けています。今回の訓練では、下記の①~④の訓練内容を関連付けています。



①インクルーシブな視点による避難所設置・運営訓練

②飲料水、トイレ袋



③電気自動車等の利用

④地域住民と企業、団体、ボランティアとの協働



避難所におけるSDGsの実現について、どう思いますか。(1つ選択)

- ア. 非常に大切だと思う。
イ. 大切だと思う
ウ. 何も思わない
エ. SDGsについて聞いたことがないのでわからない

(問9) インクルーシブな視点(高齢者、障害者、乳幼児等に配慮した包括的な視点)による避難所設置・運営訓練(授乳スペース、キッズスペース、ユニバーサルトイレの設置等)を行いました。どのように感じましたか。

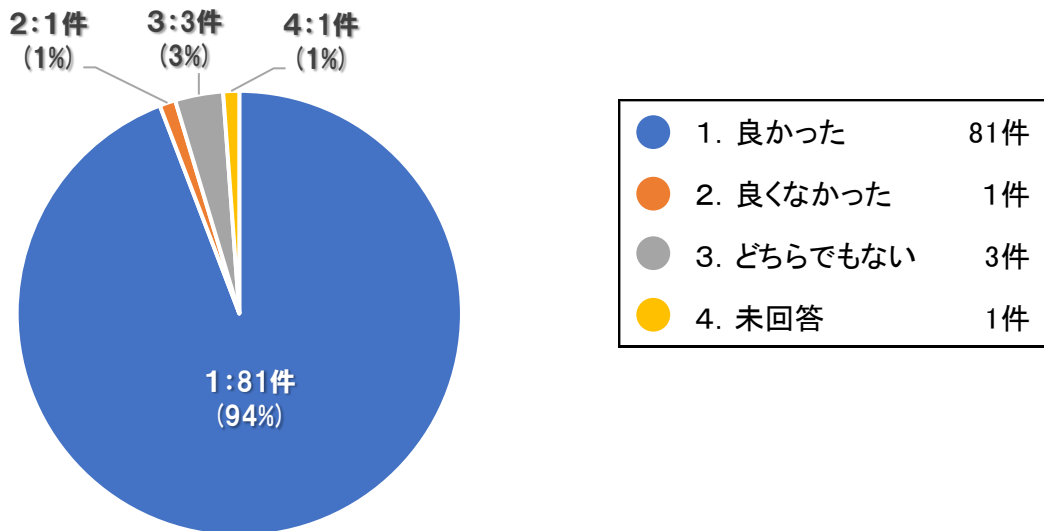
<自由記述>

これで終わります。ご回答ありがとうございました。回収箱に提出してください。

3.3.2. アンケート結果

令和4年度海南市防災訓練 アンケート結果 (1/5)

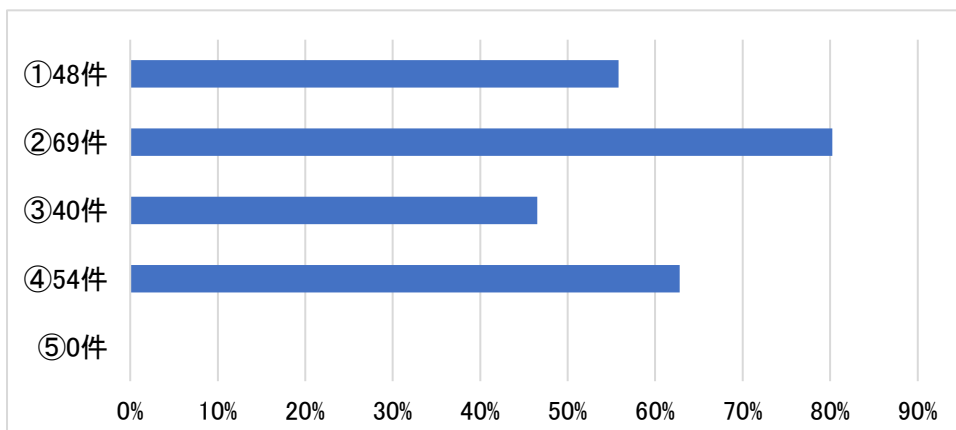
◇訓練についての感想



訓練についての感想

◇今回の訓練で感じたこと (複数回答可)

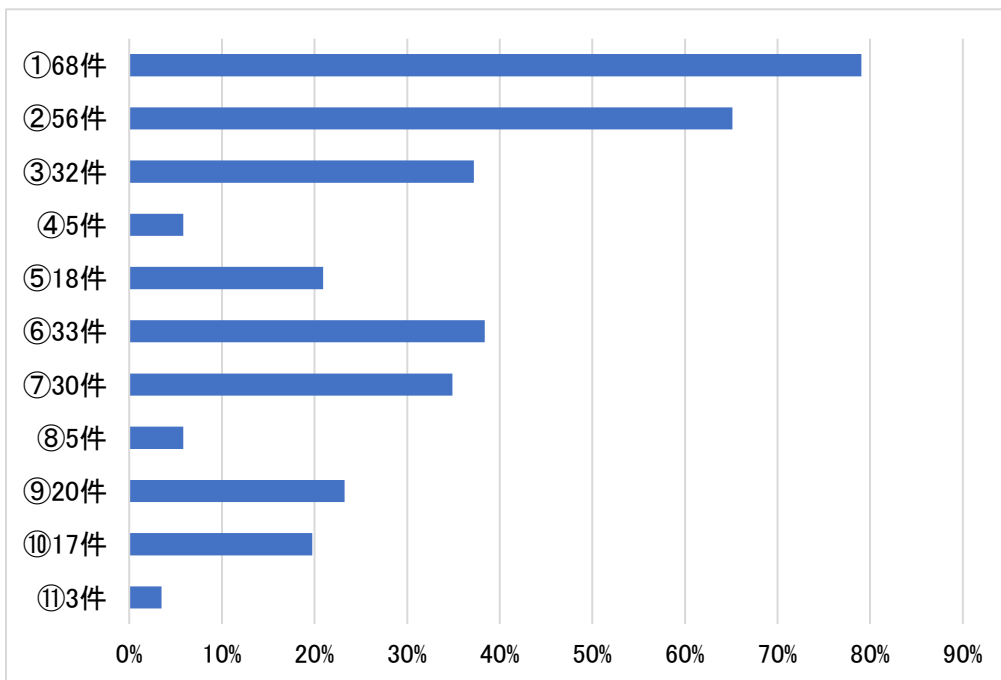
No.	選択肢	件数	割合
①	非常持出品の準備など、日頃の備えの有用性	48件	58%
②	自主防災組織やボランティアによる助け合いの必要性	69件	80%
③	企業や団体などの協力の重要性	40件	47%
④	定期的な訓練の必要性	54件	63%
⑤	何も感じなかった	0件	0%



令和4年度海南市防災訓練 アンケート結果 (2/5)

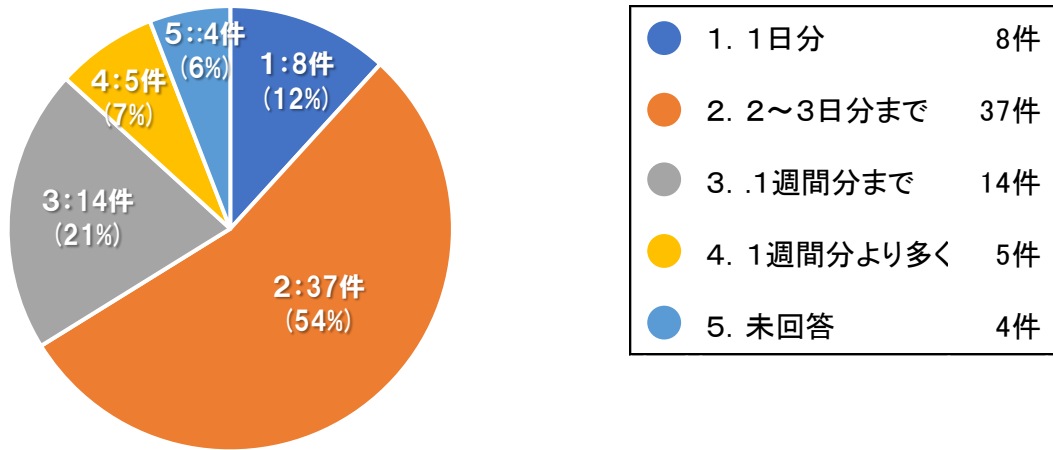
◇ご家庭の災害への備えについて (複数回答可)

No.	選択肢	件数	割合
①	食料や飲料水の備蓄	68件	79%
②	非常持出品 (懐中電灯や着替え、薬など) の準備	56件	65%
③	家族の避難場所や安否確認方法	32件	37%
④	市避難所以外の親せきや知人宅への避難	5件	6%
⑤	自主防災組織に加入	18件	21%
⑥	隣近所の人や友人との助け合い	33件	38%
⑦	家具の転倒防止対策	30件	35%
⑧	感震ブレーカーの設置	5件	6%
⑨	災害に備えた保険への加入	20件	23%
⑩	自家用車のこまめな満タン給油	17件	20%
⑪	何もしていない	3件	3%



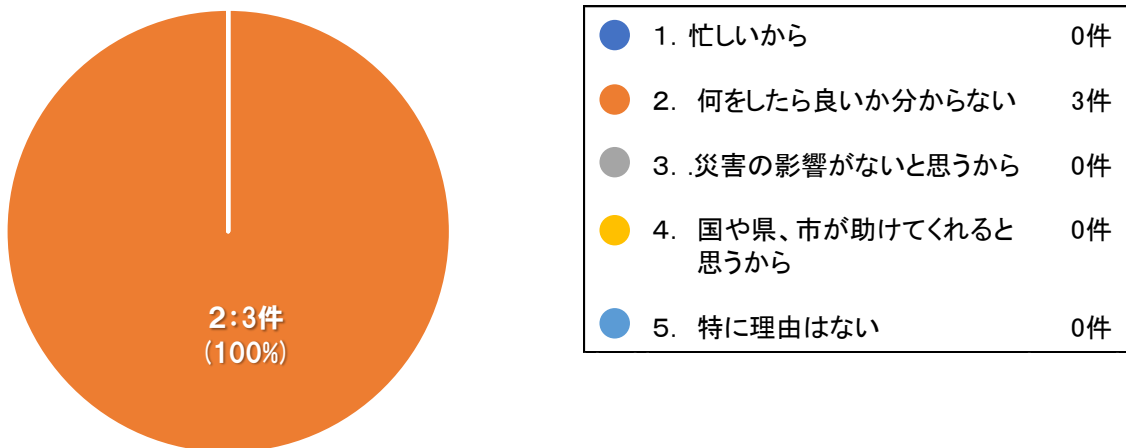
令和4年度海南市防災訓練 アンケート結果 (3/5)

◇【ご家庭の災害への備えについて】で「食料や飲料水の備蓄」と回答した方は1つ選択してください



食料や飲料水の備蓄

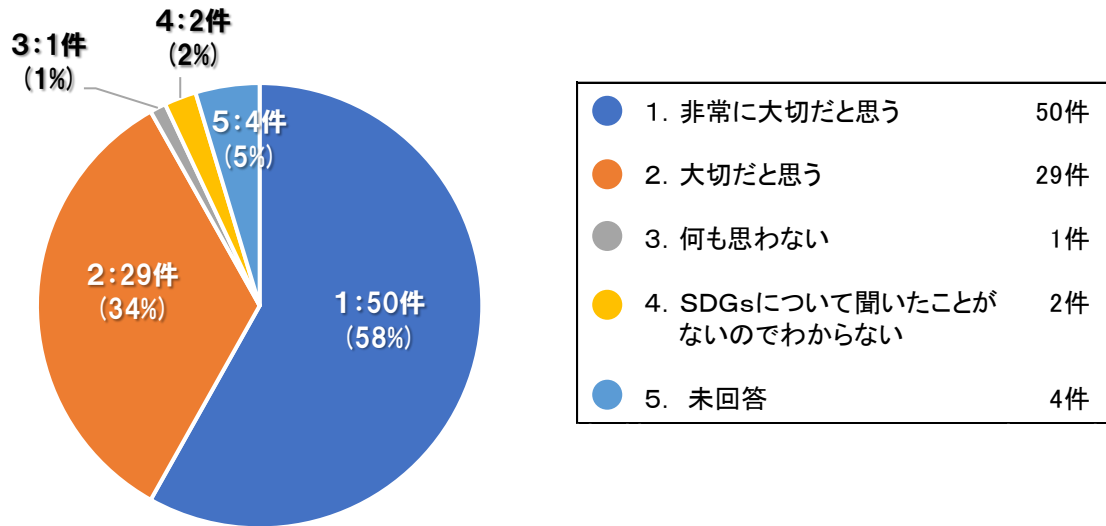
◇【ご家庭の災害への備えについて】で「何もしていない」と回答した方の理由（1つ選択）



何もしていないと回答した方の理由

令和4年度海南市防災訓練 アンケート結果 (4/5)

◇避難所におけるSDGsの実現について、どう思いますか (1つ選択)



避難所におけるSDGsの実現について

令和4年度海南市防災訓練 アンケート結果 (5/5)

◇インクルーシブな視点（高齢者、障害者、乳幼児等に配慮した包括的な視点）による避難所設置・運営訓練（授乳スペース、キッズスペース、ユニバーサルトイレの設置等）を行いました。どのように感じましたか（自由記述）

分類		感想
インクルーシブな視点		<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者に対する一般の人の対応や受入れが優しく、訓練しやすかった。 ● 乳幼児や高齢者にはきっちり配慮できたと思う。 ● 車イスが通れるように通路が広がっていて良いと思った。
避難所設置・運営訓練	キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> ● キッズスペース設置はとても良い事だと思う。(3名) ● キッズスペースは子ども達が楽しく遊んでいた。(2名) ● キッズスペースのように全ての年齢の人が生活を快くできる工夫が必要だと思う。 ● 子どもの為にキッズスペースが用意されていたので、子どもの泣き声など無く、楽しい声など聞こえてきたので良かった。 ● キッズスペースの設営を手伝って、小さい子は災害時にストレスに感じるかもしれないと思っていたのでこのような場所があるのはいいと思いました。また小さい子のやりたい！という気持ちを尊重しながら楽しく訓練に参加できて良かった。 ● キッズスペースの設営を手伝って、小さい子たちがすごく積極的に動いていて、もっと自分たちも動かないといけないなと思った。
	ユニバーサルトイレ	<ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサルトイレの設置方法を見たかった。(4名)
	避難所スペース	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な設置だと思う。 ● 大変いいと思う。避難者が多いとかなりスペースがあるので、その間（スペース）が必要かと思う。 ● 多くの人が過ごしやすい避難所を作ることは大切だと思う。 ● 色々な人がなるべく自由に快適に過ごせるような工夫がとても良いと感じた。 ● 災害時にどのようなスペースが必要かを理解できた。 ● 人それぞれの状況にあわせてしっかりスペースをつけて、誰一人として取り残さずにできていると思った。 ● それぞれのスペース確保はとても大切なことだと思う。ただ、今日の体育館内は狭く感じた。災害時はもっと人数が増える。 ● 避難者に応じたスペースの設置をしなければ不自由なことが多くなるので非常に大切であると感じた。 ● プライバシーの確保ができていてよかった。
	組み立て	<ul style="list-style-type: none"> ● すごく簡単で、知らない人とでも簡単に組み立てられた。 ● スペースを組み立てる際、開くのが難しかった。

分類		感想
避難所設置・運営訓練	備品	<ul style="list-style-type: none"> ● 寝袋や毛布が必要。(2名) ● 最初に冬の設置枚数の表示が必要。冬場はシート1枚では足りないのではないか。
	人材	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難訓練時にドクターや看護師さんが一人もいないのは心配である。
	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● チーム(グループ)での設営を分けて行う事でそれぞれの立場で必要な方を配置していく事で、使い勝手等の意見をその場で取り入れる必要があると感じた。 ● コミュニケーションを取る事が大切だと思った。
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生はもっと積極的に動くべきであった。
	放送	<ul style="list-style-type: none"> ● 放送の声が小さかったので聞こえづらかった。(2名)
	訓練の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な方々への気づかいが感じられてとても良いと感じた。このようにしっかりと訓練することの重要性を感じた。 ● 定期的に行う必要があると思った。 ● 訓練は数多くこなした方が良いと思うので、防災訓練以外でも実施する方向性で検討してはどうか。 ● 数回対象者を変えて実施すべき。 ● ある程度繰り返しこの訓練が必要だと思った。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常に重要で意義のある必要なものである。(8名) ● 良かったと思う。(4名) ● 少しでも不安が取り除ければ良い事だと思う。 ● 楽しかったのでまた来たい。またの参加楽しみである。 ● 訓練で教わった事を思い、災害時に役立てたいと思った。 ● 地域の人が集う良い機会だと感じた。普段あまりこのような機会がないので良いと思った。 ● 誰もが不安のない避難所生活にするための工夫というものが大切だと改めて感じた。 ● その視点に立ってすることで、必要な事、助けが理解できた。 ● 人々の助け合いの大切さを学べた。声をかける勇気などを作っていきたい。 ● 災害時もよりよい生活が大切だと感じた。

3.4. 事業実施の成果

- ・女性や子どもなど、多様な視点を取り入れた避難所運営や避難内のコミュニティ形成について先進的な取組を実践した経験者による研修では、被災者の長期の生活の場となる避難所における活動内容や、多様な視点による連携・協働の重要性を学ぶことができた。
- ・防災訓練事前研修では、学識経験者等の講演により、地域連携や災害関連死、要配慮者への合理的配慮について学ぶとともに、要配慮者対応のトイレやテントの設置や、車椅子の使用方法等の研修を受け、訓練参加者が訓練の目的について、共通認識を得ることができた。
- ・小・中学生向けの防災学習では、「災害時の被災者の気持ち」に関するグループワークや「避難所支援や防災での大切なこと」に関する学習、車椅子体験を実施し、小・中学生の福祉防災に対する意識の向上に繋がった。
- ・誰ひとり取り残さない「インクルーシブ防災」をテーマとした WEB 配信による研修では、地域関係者、福祉関係者、防災士等を対象に、避難行動要支援者への対応や、地域関係者と福祉関係者、障害当事者等の顔の見える関係の構築の必要性、地域における支援の進め方等を学び、インクルーシブな視点による地域防災力向上に繋がった。
- ・地元高校生向けの研修では、地域の将来を担う次世代の方々に向けた講演とともに、災害時の体験型の防災知識の醸成を目的に、訓練に参加した生徒がスタッフとなり、段ボールベッドの組立に関する体験ブースを実施し、高校生の防災・減災に対する意識の向上に繋がった。
- ・訓練では、「誰ひとり取り残さないインクルーシブな防災訓練」をテーマに実施し、乳幼児等の子育て中の親子や、障害当事者も参加する中、地域の自主防災組織や高校生、福祉施設関係者、防災士、災害ボランティアがグループとなるとともに、企業等と連携し、災害関連死を防ぐための避難所環境の整備のほか、被災した子どものケアのためのキッズスペースの設置を実施し、障害当事者や乳幼児等の要配慮者、子育て中の親子等の様々な立場の方が参加することで、多様な配慮についてより深く考える機会となったほか、地域住民や要配慮者、福祉施設等と協働で訓練を実施することで、地域における顔の見える関係の構築に繋がった。
- ・地域の福祉施設、要支援者及び障害当事者による福祉避難所移送訓練では、地域関係者の協力のもと、移送時の手順等の確認を行うとともに、福祉施設と地域の連携による避難支援活動を目指した取組を実施できた。また福祉避難所では、段ボールパーティションや段ボールベッドの組立を施設の職員と障害当事者で実施し、居住スペースの設営について確認できた。
- ・県看護協会との連携による在宅避難者対応訓練では、災害関連死を防ぐための取組を実施するとともに、周辺道路では、地域の連携により、地元消防団が津波浸水想定区域外への通行車両の誘導の手順を確認できた。
- ・社会福祉協議会が開設する災害ボランティアセンターでは、地元 NPO 団体による運営支援のもと、高校生が運営スタッフとして参加し、避難者支援のためのボランティア活動を実施することで、連携・協働を目指した支援体制の構築と取組を実践することができた。

3.5. 今後の展開

(1) 避難行動要支援者の個別避難計画の作成率向上と連携強化のための取組

個別避難計画の作成に当たっては、市の福祉部局が主体となり、地域関係者だけではなく、福祉施設や福祉専門職など、様々な関係者と連携して、避難支援等に必要な情報を共有し、避難支援等に関する調整を行い、計画作成を更に進めていく。

(2) 福祉避難所の確保・設置

東日本大震災をはじめ、過去の災害において、多様なニーズをもつ要配慮者への支援には、きめ細かく対応することが難しく、支援が行き届かなかったと指摘されているため、災害時に配慮を要する被災者への必要な福祉サービスを提供できるよう、民間福祉施設等との協定等により、更なる福祉避難所の確保に努める。

(3) 他地域や多様な組織への水平展開

各自主防災組織等が活動を実施する際の参考となるよう、ホームページや広報誌等への掲載を行う。また、市内の自主防災組織等あてに毎年送付している「自主防災活動の手引き」に取組を掲載し、市内全域において、組織の枠を超えた、他の組織等との連携・協働意識の醸成を図るとともに、水平展開を進めていく。

令和4年度 海南市地域防災活動支援事業 実績報告

～ 異 地 区 ～

令和5年1月

海南市 総務部 危機管理課

〒642-8501 和歌山県海南市南赤坂11番地

電話：073-483-8406 ファックス：073-483-8483

メール：kikikanri@city.kainan.lg.jp